

福祉教育レシピ一覧

「ふくし」とは「ふだんのくらしを、しあわせに」していくこと、みんなが笑顔で暮らせるようすることについて考えることです。

当事者との関わりや体験を通じて、子どもたちが福祉について考えるきっかけをつくるプログラムを用意しています。

1 プログラムの内容

障害者・高齢者など当事者からのお話や、レクリエーションによる交流などを通して、当事者の普段の生活や多様性、ユニバーサルデザインについて学びます。

プログラム名	講師	概要
車いす体験・交流	身体障害当事者	実際に車いすに乗ってみて感じたことや障害当事者との交流から気づきや自分たちにできることを考えます。
アイマスク体験・交流	視覚障害当事者	アイマスクをつけた状態での活動や障害当事者との交流から気づきや自分たちにできることを考えます。
手話体験・交流	聴覚障害当事者 手話通訳者	障害当事者である講師の体験談や生活の様子を聞きます。また、手話を使って講師と交流します。
点字体験・交流	視覚障害当事者 点訳ボランティア	障害当事者である講師の体験談や生活の様子を聞き、実際に点字を打つ体験をします。
知的・発達障害の疑似体験・交流	手をつなぐ育成会	知的・発達障害の特性の疑似体験や寸劇などを通して障害者の理解、接し方、多様性について学びます。
知的障害者との交流	障害者デイサービス きららハウス	当事者による踊りの鑑賞やパラスポーツによる交流などを通して障害者の理解、接し方、多様性について学びます。
高齢者との交流・体験	近隣にお住いの高齢者の方 区内高齢者施設 高齢者疑似体験インストラクター	高齢者疑似体験では専用の用具を使い加齢による体の変化を知ります。また、対話やレクリエーションを通じて高齢者と交流します。

所要時間：各 90 分程度（ご相談に応じて実施できます）

講師謝金はクラス数や内容によって異なりますのでその都度ご相談ください。

2 ご依頼の流れ

①昭和区社会福祉協議会まで FAX・メールにて「福祉教育依頼票」をお送りいただくか、お電話にてご連絡ください。

※講師等との調整をスムーズに行うため、可能な限り「福祉教育依頼票」は実施予定日の2か月前までにお送りくださいますようお願いいたします。

※「福祉教育依頼票」は昭和区社会福祉協議会ホームページからもダウンロードできます。(https://www.showaku-shakyo.jp/business/education/)

②昭和区社会福祉協議会が、「福祉教育依頼票」やお電話にてお伺いしたプログラムを実施可能な講師との調整を行います。

③学校、講師、昭和区社会福祉協議会の三者で打ち合わせを行い、授業のねらいに沿ったプログラムを一緒に考えます。

3 資器材について

プログラム内容によっては、実施に必要な物品のご準備や貸出資器材（車いす、ボッチャ、高齢者疑似体験セット等）の受取・返却をお願いする場合がございます。詳細は昭和区社会福祉協議会までご相談ください。

【コロナ禍における対応】

- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況をふまえた具体的な内容については、先生および講師と一緒に検討しながら進めさせていただきます。
- ・講師等のマスク着用、検温、消毒等、学校のガイドライン等に沿った感染症予防対策を実施します。
- ・映像機器の利用や児童生徒同士の接触を避けるなど、密集を回避して授業を実施します。